

令和4年7月28日発行 第23号

7/12 中部教育事務所管内 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム ～飛躍と拡充を目指して～

7月12日、本年度の最後を締めくくる「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムが、生涯学習推進センターを会場に参集型とオンラインのハイブリット形式で開催されました。テーマは「飛躍」と「拡充」。立場や役割が異なるシンポジストと参加者による様々な視点からの意見交流が行われました。多くの参加者が、身振り手振りを交え、積極的に協議する姿が見られ、大変盛り上がったフォーラムとなりました。遠野市教育委員会のCS導入に向けた3か年計画（まなびネットいわて→遠野市かわらばん第4号参照）は、これからCSを導入する市町村には大変参考になると思いますの是非をご覧ください。



シンポジスト 大迫小学校長 宮川琢夫氏

昨年度は「熟議体験」に取り組んだ。**教育振興運動組織を統合することで、実働できる体制をつくった。**地域学校協働活動推進員をお願いする際は、推進員に夢を持ってもらえるような説明の仕方を考えていきたい。



シンポジスト 北上市鬼柳地区 地域学校協働活動推進員 伊藤成一氏

ボランティアの確保は難しい課題。コロナ禍で実行できなかったところもある。地域と学校のつなぎ方を工夫しながら、コーディネートしていきたい。



シンポジスト 遠野市教育委員会 生涯学習スポーツ課 主任兼社会教育主事 佐々木一樹氏

昨年度は「CSの導入準備」として説明や研修会、熟議体験に取り組んだ。県教委の支援のもと、**熟議*体験を実施。「本音で話すことの大切さ」を認識**していただいた。



シンポジスト 湯田中学校長 吉田幸哉氏

学校運営協議会委員に毎月1日学校に来校して頂き、「語り合い」の場をもっている。**学校と地域、生徒と社会の敷居を低くし、地域も学校も元気にしたい。**



助言者 秋田県生涯学習センター 社会教育主事 皆川雅仁氏

中学校区のCSは、教育課程を9年間で見ることが容易になる。学校長時代は、**キャリア教育の計画を地域の人たちと作ることで、小中連携と教科横断を効果的に推進できた。**目標共有なしで、いきなりボランティアをお願いしますでは、誰でも気が引ける。**熟議を通して目標を共有することが大切。**目標共有の後の熟議で課題を発見する。その課題の整理を学校運営協議会で行い、解決に向けた取組の優先順位を決める。優先順位1位の課題解決に向けて熟議する。このピンポンのようなやりとりこそCSを活性化する方法。



コーディネーター 中部教育事務所 主任指導主事 齋藤真氏

学校を中心に、横に横につながっていく共同体づくりがCSの取組。CSは学校の活性化、保護者と地域の横の連携、関わる全ての幸福実現につながる大いなる可能性を秘めた制度。

※熟議→①多くの当事者（地域住民等）が集まって、②課題について学習し、熟慮して討議することにより、③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、④解決策が洗練され、⑤個人が納得して自分の役割を果たすようになるプロセス。

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。